

第10回(令和2年度 第1回)
和泉市立総合医療センター 経営評価委員会

次 第

日 時：令和2年8月4日(火)午後2時00分～

場 所：和泉市立総合医療センター 3階 講堂

1. 開 会

2. 議 題

- ①令和元年度 運営状況について … (資料1)
- ②令和元年度 進行管理(PDCA)チェックシート … (資料2)
兼経営評価シートについて
- ③令和元年度 答申(案)について … (資料3)
- ④令和2年度評価の諮問について … (資料4)

<資料>

委員・出席者名簿

- 資料1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和元年度 運営状況
- 資料2 令和元年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート
- 資料3 令和元年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況の評価について(答申)(案)
- 資料4 令和2年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について(諮問)

<参考資料>

- 参考資料1 和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則
- 参考資料2 和泉市立病院 新改革プラン
- 参考資料3 和泉市消防本部 救急搬送件数
- 参考資料4 診療科別 紹介患者数
- 参考資料5 診療科別単価 前年度比較

和泉市立総合医療センター運営事業
令和元年度
運営状況

目 次

1. 令和元年度 事業計画	1
2. 医療機能に係る指標	1
1. 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分	
①患者数の前年度実績との比較	
②月別1日あたり患者数の推移(入院)	
③月別1日あたり患者数の推移(外来)	
④診療科別1日あたり患者数(入院)	
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)	
⑥病床稼働率	
⑦診療単価	
⑧救急患者受入数	
⑨和泉市消防本部 救急搬送	
2. その他、医療機能に係る指標	
①平均在院日数	
②紹介率、逆紹介率	
③手術者数	
④健診	
⑤医療事故等への対応	
3. 職員数	8
①職員数の推移(非常勤職員含む)	
4. 患者サービス向上に係る取り組み	9
①令和元年度取り組み	
②令和元年度提案ポストへの投書件数	
5. 経営健全化に係る指標	10
①損益計算書	
②貸借対照表	

1. 令和元年度 事業計画

- ・主な取り組み
常勤医師を97名に増員。積極的に研修医を受け入れ人材育成に取り組む。
人間ドックの予約枠拡大を図る。
- ・1日あたり患者数
入院 292名(退院日の患者数を含む)
外来 890名

2. 医療機能に係る指標

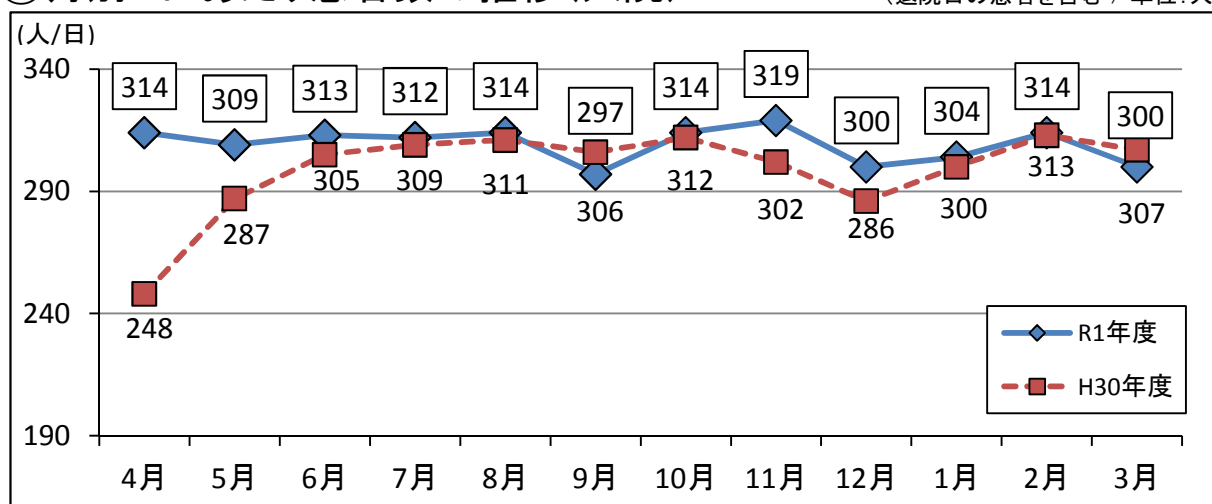
1. 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分

①患者数の前年度実績との比較

	実 績			令和元年度 新改革プラン目標値
	令和元年度	平成30年度	比較(増減率)	
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	309人	299人	10人 (+3.3%)	292人
1日当たり外来患者数	970人	850人	120人 (+14.1%)	890人

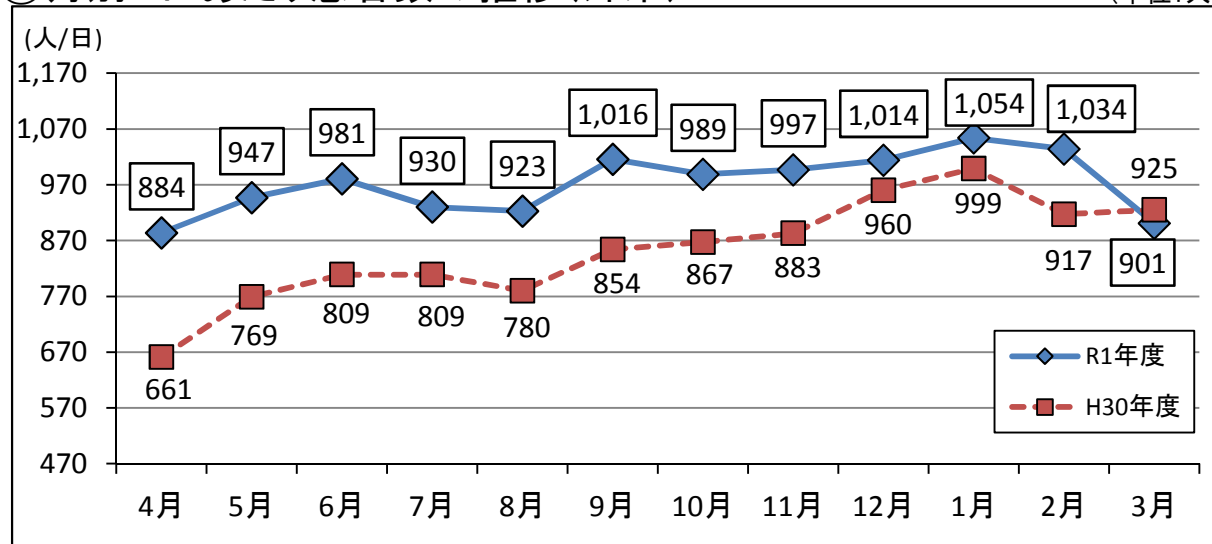
②月別1日あたり患者数の推移(入院)

(退院日の患者を含む / 単位:人)



③月別1日あたり患者数の推移(外来)

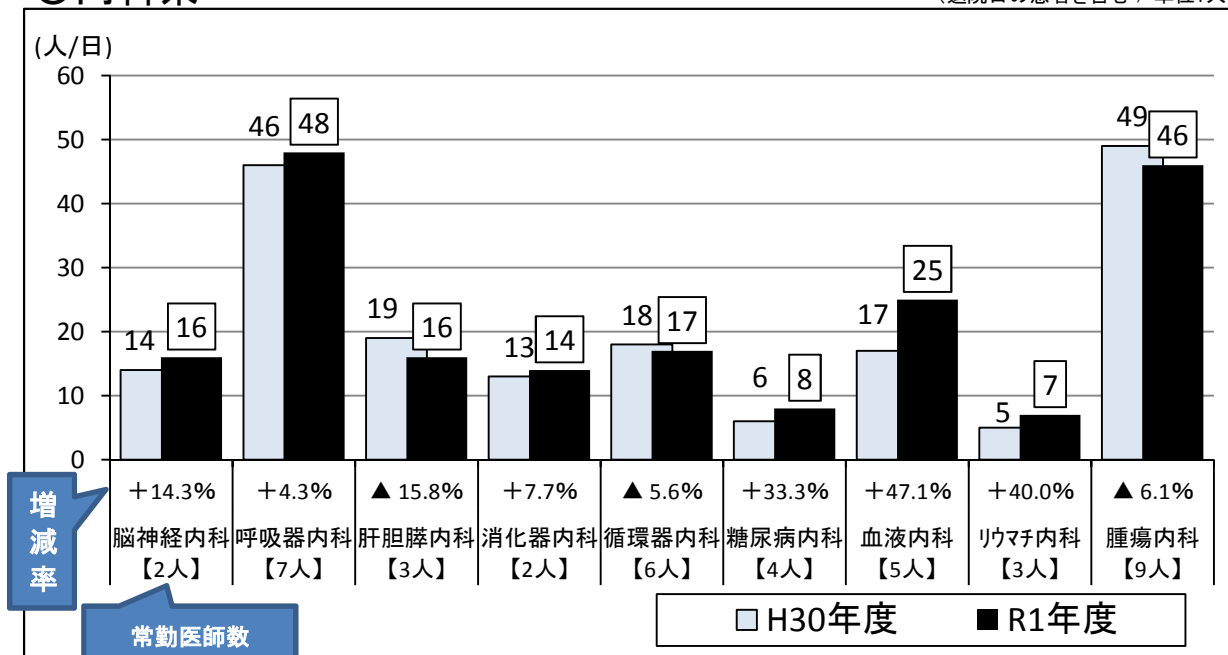
(単位:人)



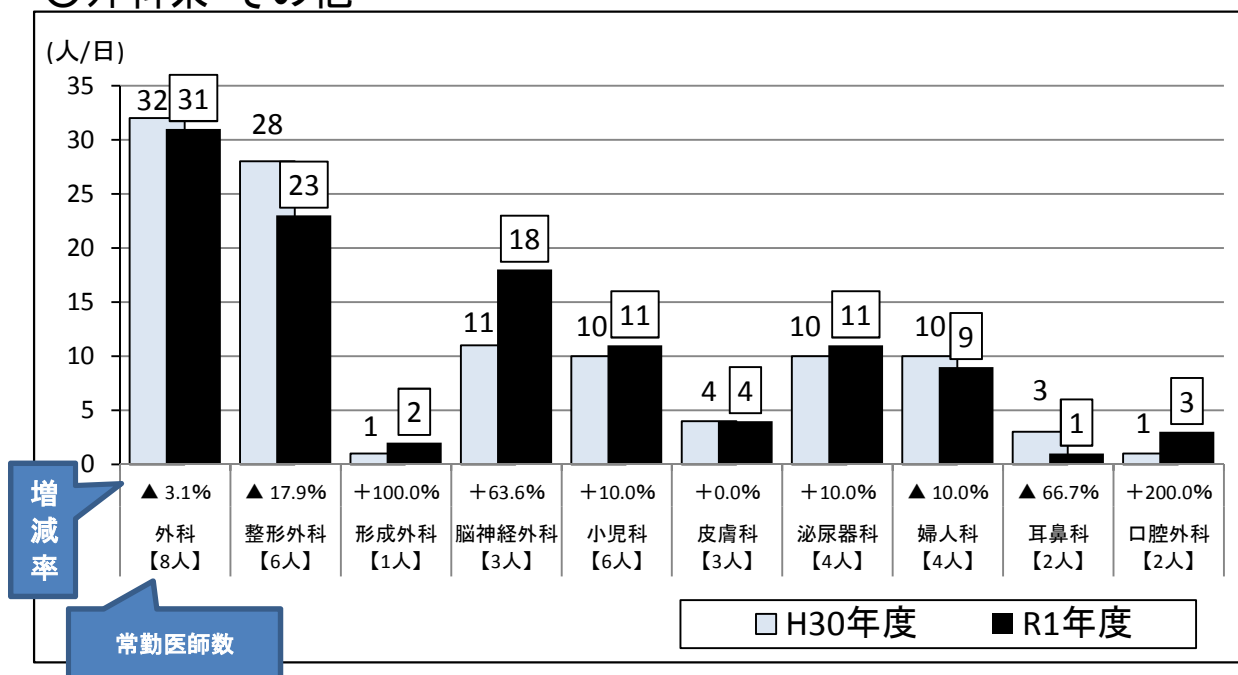
④診療科別 1日あたり患者数(入院)

○内科系

(退院日の患者を含む / 単位: 人)



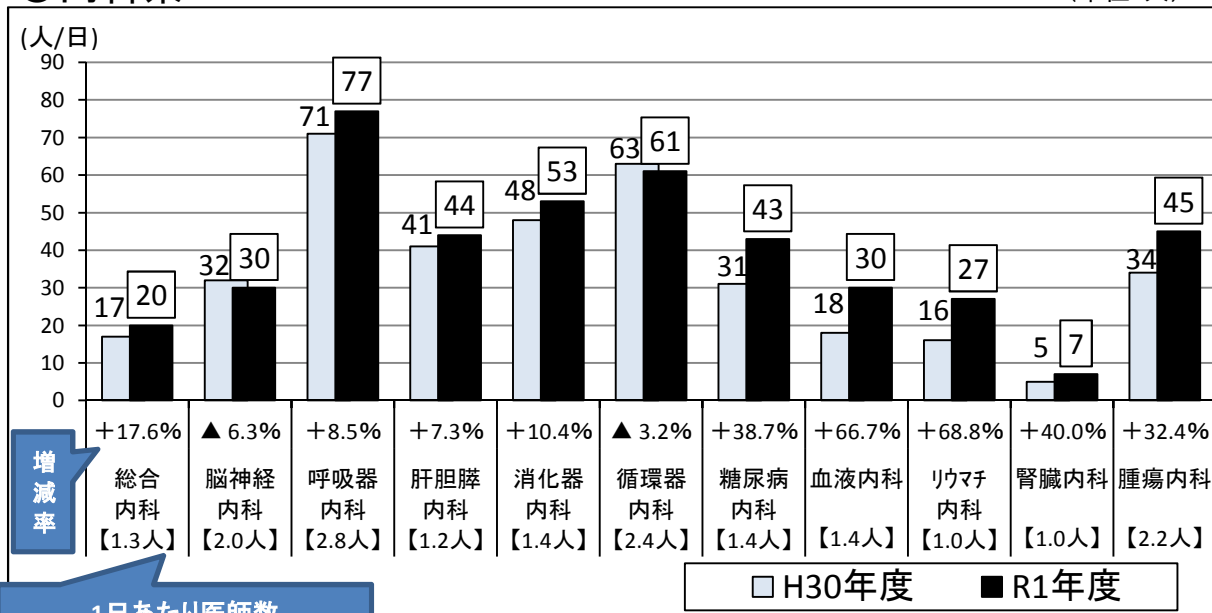
○外科系・その他



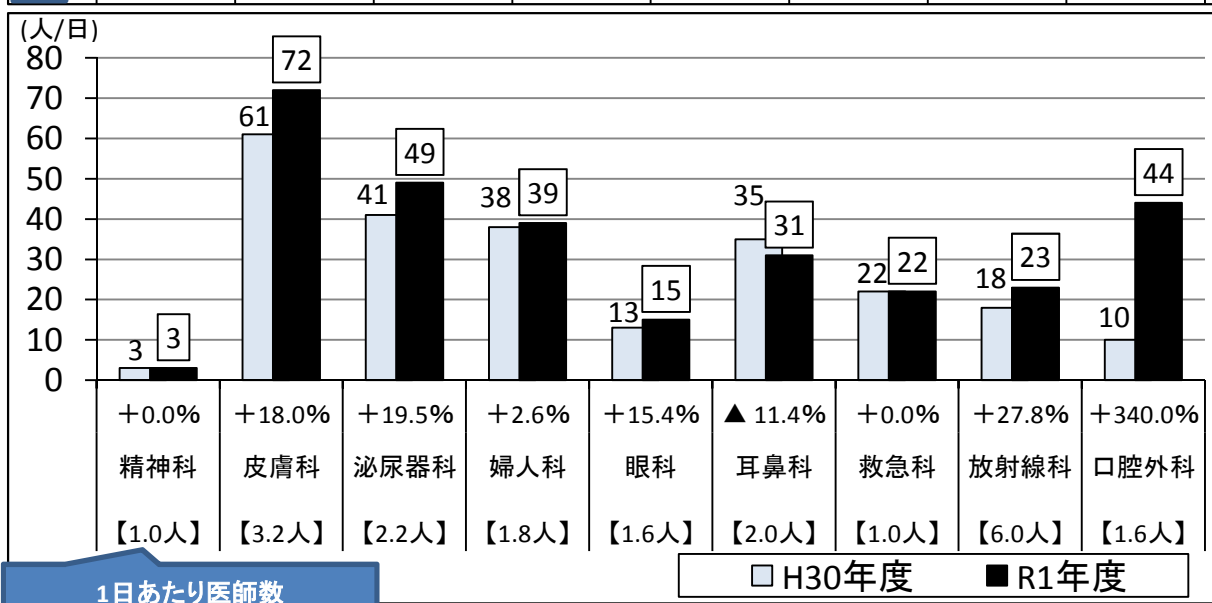
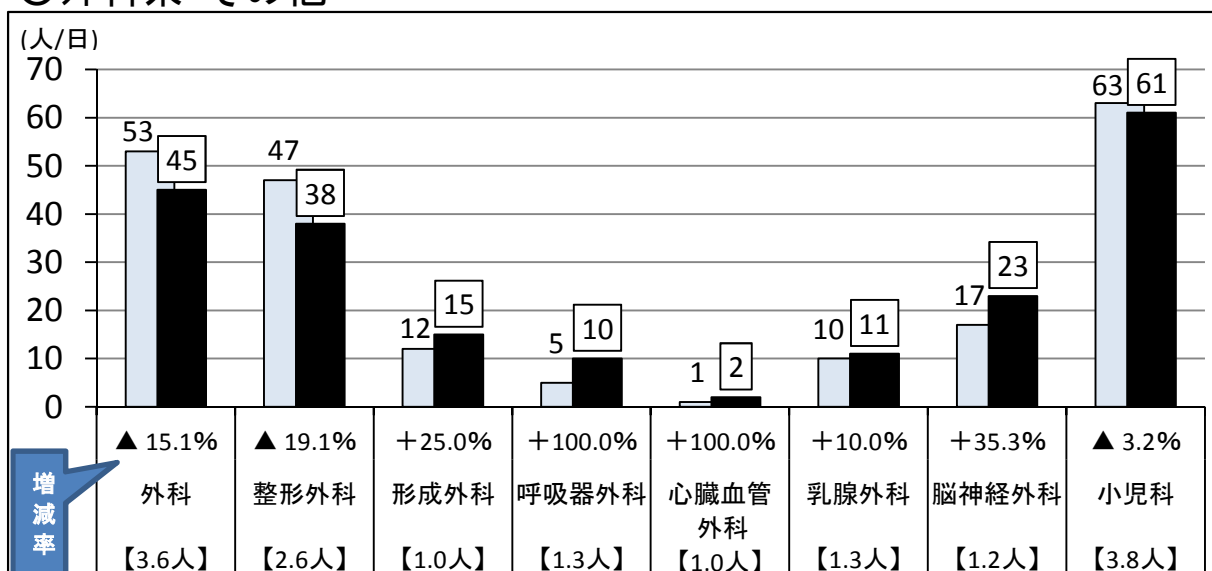
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)

○内科系

(単位:人)



○外科系・その他



※診療日が5日未満の診療科は、実診療日にて算出しています。

⑥病床稼働率

(単位:人、床、日、%)

年度	稼働率	新改革プラン 目標値	延患者数 ÷ (許可病床数 × 日数) × 100
令和元年度	100.7 %	95.0 %	113,118 ÷ (307 × 366) × 100
平成30年度	97.3 %	87.9 %	109,054 ÷ (307 × 365) × 100

⑦診療単価

	実 績			令和元年度 新改革プラン 目標値
	令和元年度	平成30年度	比較(増減率)	
入院診療単価 (退院日の患者を含む)	61,151円	56,946円	4,205円 (+7.4%)	59,961円
外来診療単価	19,047円	16,447円	2,600円 (+15.8%)	16,500円

⑧救急患者受入数

(単位:人、%)

診療科	実 績		前年度 比較	実 施 状 況
	令和元年度	平成30年度		
小児科	3,412	3,585	▲ 173 (▲4.8)	毎週火曜日19:00～翌6:00 第2,4,5土曜日23:00～翌6:00
内科系 外科系	11,462	11,235	+227 (+2.0)	終日実施
合 計	14,874	14,820	+54 (+0.4)	
搬送者数	3,557	3,526	+31 (+0.9)	
搬送者の うち入院	1,161 (32.6%)	1,105 (31.3%)	56 (+5.1)	

⑨和泉市消防本部 救急搬送

(単位:人、%)

区分	令和元年度	搬送率	平成30年度	搬送率	前年度比較 (増減率)	令和元年度 新改革プラン 目標値	搬送率
和泉市立 総合医療センター	2,303	25.7	2,351	26.3	▲ 48 (▲2.0)	2,600	28.9
市内民間病院	3,657	40.8	3,798	42.4	▲ 141 (▲3.7)		
市 外	3,004	33.5	2,804	31.3	+200 (+7.1)		
合 計	8,964		8,953		+11 (+0.1)		

(和泉市消防本部統計より)

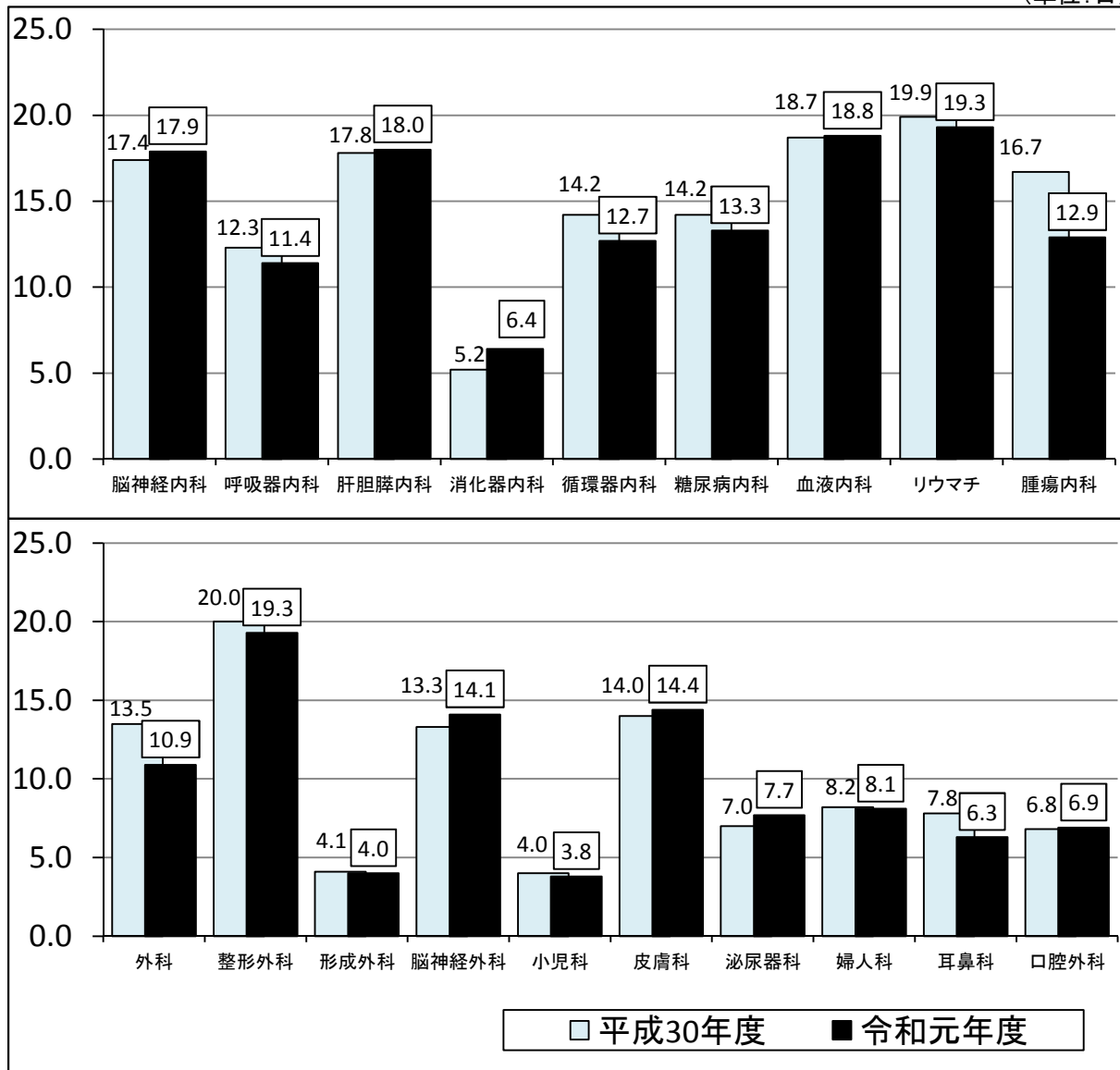
2. その他、医療機能に係る指標

① 平均在院日数

(単位: 日)

	令和元年度	平成30年度	増減
全診療科平均	11.4	12.0	▲ 0.6

(単位: 日)



②紹介率、逆紹介率

(単位:人)

	年 度	実 績	(初診紹介患者数 + 救急搬送) ÷ 初診患者数 × 100			
紹介率	令和元年度	71.3%	(8,938 + 3,557)	÷	17,529	× 100
	平成30年度	68.9%	(10,578 + 3,526)	÷	20,463	× 100
	年 度	実 績	逆紹介患者数 ÷ 初診患者数 × 100			
逆紹介率	令和元年度	63.8%	11,195	÷	17,529	× 100
	平成30年度	45.5%	9,303	÷	20,463	× 100

③手術件数

(単位:人、%)

指 標		令和元年度		平成30年度		差		増減率(%)	
		うち全麻		うち全麻		うち全麻		うち全麻	
手術者数	外 科	869	640	756	611	+113	+29	+14.9	4.7
	整形外科	401	372	504	464	▲103	▲92	▲20.4	▲19.8
	婦人科	248	210	237	184	+11	+26	+4.6	14.1
	皮膚科	169	12	153	7	+16	+5	+10.5	71.4
	形成外科	359	72	234	59	+125	+13	+53.4	22.0
	泌尿器科	369	38	359	50	+10	▲12	+2.8	▲24.0
	脳神経外科	149	73	58	31	+91	+42	+156.9	135.5
	耳鼻いんこう科	11	6	48	40	▲37	▲34	▲77.1	▲85.0
	計	2,575	1,423	2,349	1,446	+226	▲23	+9.6	▲1.6
	歯科口腔外科	67	65	13	13	+54	+52	+415.4	400.0
	合計	2,642	1,488	2,362	1,459	+280	+29	+11.9	2.0

④健診

(単位:人、%)

指 標	令和元年度	平成30年度	差	増減率
人間ドック	1,505	826	+679	+82.2%
特定健診	1,244	1,441	▲197	▲13.7%

⑤医療事故等への対応

○レベル別件数

(単位:件)

	レベル	職 種	令和元年度	平成30年度	事例(本年度)
インシデント	0 ～ 3a	医師	80	80	薬剤関連(過剰内服、過少投与、投与時間間違い、無投薬等) 転倒転落 ルートトラブル(自己抜去、血管外漏出等) 検査関連(検体間違い、取扱い間違い等) その他(システム不具合等)
		看護師	1,496	1,182	
		薬剤師	66	59	
		放射線技師	101	89	
		臨床検査技師	26	26	
		リハビリ	30	21	
		その他	176	40	
		計	1,975	1,497	
アクシデント (医療事故)	3b	医師	13	2	転倒骨折(顎、腰椎、上肢) 4件 転倒後慢性硬膜下血腫 1件 合併症(処置、手術等) 8件 リハビリ時肩脱臼 1件 嚥下リハ中誤嚥 1件 ルートトラブル(胸腔ドレーン抜去) 1件 褥瘡悪化 1件 バルン抜去後偽尿道形成 1件 内服中止薬判断 1件
		看護師	13	13	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	1	1	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	1	0	
		その他	1	1	
		計	29	17	
	4a～5	医師	0	1	
		看護師	0	0	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
		その他	0	0	
		計	0	1	
	計 (3b～5)	医師	13	3	
		看護師	13	13	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	1	1	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	1	0	
		その他	1	1	
		計	29	18	

※その他内訳:
栄養科、ME

○種類別件数

(単位:件)

概要	令和元年度	平成30年度	増減
薬剤	609	450	159
輸血	13	12	1
治療・処置	111	95	16
医療機器等	59	36	23
ドレーン・チューブ	184	127	57
検査	260	241	19
療養上の世話	430	318	112
その他	338	236	102
合計	2,004	1,515	489

(参考) 医療事故レベル

※国立大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針に準じる

インシデント	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響は与えた可能性は否定できない)
	2	処置や治療行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性が生じた)
	3a	単純な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	4a	永続的な障害が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない
	4b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

3. 職員数

①職員数の推移(非常勤職員含む)

■ 職員数の推移

(単位:人)

	R2.4	R2.3	H31.4	H30.4	H29.4	H28.4
医師	125.64	120.37	110.45	86.10	60.79	54.85
常勤	111	106	97	82	54	48
非常勤 (常勤換算)	127 (14.64)	133 (14.37)	113 (13.45)	25 (4.10)	70 (6.79)	74 (6.85)
看護部	377.86	336.33	310.93	273.30	209.94	209.87
常勤	359	320	292	247	189	188
非常勤 (常勤換算)	32 (18.86)	34 (16.33)	26 (18.93)	30 (26.30)	26 (20.94)	27 (21.87)
医療技術職	125.25	111.68	116.10	81.41	66.32	53.36
常勤	120	108	113	78	62	50
非常勤 (常勤換算)	8 (5.25)	7 (3.68)	6 (3.10)	6 (3.41)	7 (4.32)	6 (3.36)
合計	628.75	568.38	537.48	440.81	337.05	318.08
常勤	590	534	502	407	305	286
非常勤 (常勤換算)	167 (38.75)	174 (34.38)	145 (35.48)	61 (33.81)	103 (32.05)	107 (32.08)

※ 看護部は看護師免許取得者のみ。

※ 常勤換算人員は $\frac{\text{勤務時間}}{7.5 \text{ 時間}} \times \frac{\text{月間勤務日数(常勤)}}{21.67 \text{ 日}}$

■ 常勤医師の状況

(単位:人)

	R2.4	R2.3.31	H31.4	H30.4	H29.4	H28.4	H27.4	H26.4
内科	1	1		1				
循環器内科	7	6	4	5	5	4	4	5
呼吸器内科	8	7	7	5	5	6	5	4
消化器内科(内視鏡)	3	2	4	5	2			
肝胆膵内科	3	3	3	3	3	4	4	4
血液内科	4	5	4	3				
内分泌・糖尿病内科	4	4	4	2				
脳神経内科	3	2	2	3				
腫瘍内科	8	8	8	5	7	4	4	5
緩和ケア内科	1	1	1	1				
外科	13	13	11	9	4	5	5	6
消化器外科	8	8	6	4				
心臓血管外科	1	1	1	1				
乳腺外科	1	1	1	2				
呼吸器外科	3	3	3	2				
形成外科	1	1	1	1				
整形外科	6	6	6	6	6	6	5	4
小児科	6	6	6	6	6	5	5	6
脳神経外科	2	3	3	2	0	1	1	1
泌尿器科	5	4	4	3	1			
皮膚科	3	3	3	2	2	2	2	1
婦人科	5	5	4	4	4	4	4	4
耳鼻いんこう科	2	2	1	2				
リウマチ内科	3	3	3	2				
放射線科	6	6	6	5	4	4	5	5
麻酔科	4	4	4	2	2	2	2	
病理診断科	2	1	1	1	1	1	1	
歯科口腔外科	2	2	2					
研修医他	9	8	5	4	2			
	111	106	97	82	54	48	47	45

4. 患者サービス向上に係る取り組み

①令和元年度取り組み

サービス	時期	主 な 内 容
出前講座・医療講演 【継続】	4月～	市民の要望に応じて医師等が地域に出向き、成人病対策やこどもの疾患等を分かりやすく説明し、健康づくりの一助として取り組んだ。
和泉市在宅医療・介護連携コーディネート事業 【継続】	4月～	地域の医療(介護)機関が連携することにより、包括的かつ継続的な在宅医療(介護)を提供できるよう地域の専門職の相談窓口となった。
夏休み病院見学ツアー 【継続】	8月	中高生を対象に救急処置室における患者対応や医療機器を紹介し、病院への理解を深めてもらった(中・高校生9人、保護者9人参加)。
地域医療連携推進の会 【継続】	11月	令和元年11月2日(土)、地域の医療機関との連携会を開催した。引き続き、地域の医療機関への情報提供を実施する。
世界糖尿病デー ～しっかり知って未来につなぐ～ 【新規】	11月	令和元年11月14日(木)、世界糖尿病デーにあわせ、糖尿病についてのイベントを開催した。
災害時医療訓練 【新規】	11月	令和元年11月23日(祝)、和泉保健所・消防本部・関係機関と連携を図り、医療センター内の災害時の外来・入院患者への対応、トリアージ、救急搬送などの災害時医療訓練を実施した。

②令和元年度提案ポストへの投書件数

(単位:件)

区 分	令和元年度	平成30年度	主な内容
総 件 数	241	198	
お 礼	25	12	・時間外診察の場所が分からず困っていたら案内してくれた。 ・案内もスムーズで皆さんとても丁寧でありがたかった。 ・先生、看護師ともに親切丁寧であった。
苦情・要望等	216	186	
設備	88	73	・再来受付機付近に荷物置きのカウンターが無く困る。 ⇒再来受付機横に長机を設置。 ・コンビニが狭くて車椅子で通りづらいので改善してほしい。 ⇒できる限り通路を広くとれる商品配置を行う。 ・入退院時に車を取りに行っている間、患者を玄関で待たせられるよう1階の出入口にベンチを設置して欲しい。 ⇒付近にベンチを設置。
接 遇	68	53	・他院から転院してきた際、正面玄関でストレッチャーに乗せられたまま待たされた。 ⇒連携を図るよう指示。 ・バスの運転手が病気のことを聞いてくるのはやめてほしい。 ⇒指導・教育を徹底。
そ の 他	60	60	・病室で携帯電話の使用は迷惑。談話室での使用をすすめてほしい。 ⇒入院時に禁止事項として説明。使用患者へ注意している。 ・面会時間を延長して欲しい。仕事終わりに来ると20時には間に合わない。 ⇒管理運営上20時までとしている(病院からの要請の場合は除く)。

5. 経営健全化に係る指標

① 損益計算書(4月～3月)

(単位:千円)

科 目	令和元年度 (a)	平成30年度 (b)	前年度比 (a)-(b)	増減率 %
医業収益 (A)	11,674,495	9,907,302	1,767,193	17.8
入院収益	6,916,438	6,210,161	706,277	11.4
外来収益	4,509,632	3,411,586	1,098,046	32.2
その他医業収益	248,425	285,555	▲ 37,130	▲ 13.0
うち室料差額収益	148,917	154,139	▲ 5,222	▲ 3.4
うち文書料・その他	215,976	182,585	33,391	18.3
うち保険等査定減	▲ 116,467	▲ 51,169	▲ 65,298	127.6
医業費用 (B)	10,860,301	8,970,640	1,889,661	21.1
給与費	5,169,903	4,347,508	822,395	18.9
材料費	3,813,132	2,998,160	814,972	27.2
委託費	543,903	467,777	76,126	16.3
経費	563,128	567,865	▲ 4,737	▲ 0.8
設備関係費	265,774	236,584	29,190	12.3
研究研修費	24,172	17,640	6,532	37.0
控除対象外消費税	480,289	335,106	145,183	43.3
医業損益 (A)-(B)	814,194	936,662	▲ 122,468	▲ 13.1
医業外収益 (C)	291,403	292,299	▲ 896	▲ 0.3
うち運営費補助金収益	242,994	232,954	10,040	4.3
うちその他医業外収益	48,409	59,345	▲ 10,936	▲ 18.4
医業外費用 (D)	287,151	74,929	212,222	283.2
経常損益 ((A)+(C))-((B)+(D))	818,446	1,154,032	▲ 335,586	▲ 29.1
臨時収益 (E)	0	28,938	▲ 28,938	-
臨時費用 (F)	0	29,200	▲ 29,200	-
税引前利益 ((A)+(C)+(E))-((B)+(D)+(F))	818,446	1,153,770	▲ 335,324	▲ 29.1
医業収支比率 (A)÷(B)×100	107.5	110.4	▲ 2.9	
経常収支比率 ((A)+(C))÷((B)+(D))×100	107.3	112.8	▲ 5.5	
給与費率 (給与費)÷(A)×100	44.3	43.9	0.4	
材料費率 (材料費)÷(A)×100	32.7	30.3	2.4	
新改革プラン目標値(R1) 経常収支比率	105.7			

(うち医業費用明細) (4月～3月)

(単位:千円、%)

科 目	令和元年度		平成30年度		前年度比	増減率
	(a)	構成比 (%)	(b)	構成比 (%)	(a)-(b)	%
医業費用	10,860,301	100.00	8,970,640	100.00	1,889,661	21.1
給与費	5,169,903	47.60	4,347,508	48.46	822,395	18.9
うち常勤職員給与	3,269,283	30.10	2,847,809	31.75	421,474	14.8
うち非常勤職員給与	557,520	5.13	444,089	4.95	113,431	25.5
うち法定福利費	548,734	5.05	471,874	5.26	76,860	16.3
うち賞与	545,229	5.02	448,607	5.00	96,622	21.5
うち退職金	157,115	1.45	47,923	0.53	109,192	227.8
材料費	3,813,132	35.11	2,998,160	33.42	814,972	27.2
うち医薬品費	2,684,680	24.72	1,876,478	20.92	808,202	43.1
うち医療消耗品費	774,312	7.13	771,620	8.60	2,692	0.3
うち検査材料費	210,464	1.94	215,627	2.40	▲ 5,163	▲ 2.4
委託費	543,903	5.01	467,777	5.21	76,126	16.3
うち検査委託費	102,165	0.94	55,734	0.62	46,431	83.3
うち給食委託費	63,600	0.59	61,200	0.68	2,400	3.9
うち医事委託費	38,221	0.35	36,847	0.41	1,374	3.7
うち清掃委託費	60,263	0.55	50,675	0.56	9,588	18.9
うち警備委託費	28,151	0.26	28,687	0.32	▲ 536	▲ 1.9
うち労務委託費	37,955	0.35	41,519	0.46	▲ 3,564	▲ 8.6
うち事務委託費	57,520	0.53	53,049	0.59	4,471	8.4
経費	563,128	5.19	567,865	6.33	▲ 4,737	▲ 0.8
うち消耗品費	15,418	0.14	21,288	0.24	▲ 5,870	▲ 27.6
うち事務用品費	35,654	0.33	55,390	0.62	▲ 19,736	▲ 35.6
うち光熱水道費	101,218	0.93	95,808	1.07	5,410	5.6
うち広告宣伝費	10,407	0.10	19,218	0.21	▲ 8,811	▲ 45.8
うち募集費	14,825	0.14	13,433	0.15	1,392	10.4
うち保険料	41,510	0.38	29,177	0.33	12,333	42.3
うち寄付金	83,500	0.77	108,620	1.21	▲ 25,120	▲ 23.1
うち支払手数料	71,328	0.66	70,438	0.79	890	1.3
設備関係費	265,774	2.45	236,584	2.64	29,190	12.3
うち医療機器リース・レンタル料	151,365	1.39	147,449	1.64	3,916	2.7
うち減価償却費	43,699	0.40	26,899	0.30	16,800	62.5
うち修繕費	6,971	0.06	9,875	0.11	▲ 2,904	▲ 29.4
うち機器保守料	8,932	0.08	6,817	0.08	2,115	31.0
研究研修費	24,172	0.22	17,640	0.20	6,532	37.0
控除対象外消費税	480,289	4.42	335,106	3.74	145,183	43.3

②貸借対照表

(単位:千円)

科 目	R2.3.31現在(A)	H31.3.31現在(B)	増減(A)-(B)
【流動資産】	【 3,179,595 】	【 2,030,776 】	【 1,148,819 】
現金預金	18,018	50,141	△ 32,123
医業未収入金	1,958,244	1,782,171	176,073
未収金	71,329	83,716	△ 12,387
薬品	65,358	66,459	△ 1,101
診療材料	722	1,873	△ 1,151
その他貯蔵品	1,516	1,382	134
前払費用	16,779	14,644	2,135
貸倒引当金	△ 13,954	△ 16,804	2,850
大阪本部勘定	1,059,812	44,808	1,015,004
その他流動資産	1,771	2,386	△ 615
【固定資産】	【 181,711 】	【 177,459 】	【 4,252 】
(有形固定資産)	(159,659)	(164,529)	(△ 4,870)
建物	80,333	85,125	△ 4,792
構築物	1,851	227	1,624
医療機器	72,320	73,713	△ 1,393
その他器械備品	5,155	5,464	△ 309
(無形固定資産)	(8,457)	(3,616)	(4,841)
他無形固定資産	8,457	3,616	4,841
(投資他資産)	(13,595)	(9,314)	(4,281)
保証金	1,095	64	1,031
長期貸付金	12,500	9,250	3,250
【繰延資産】	【 7,049 】	【 9,356 】	【 △ 2,307 】
繰延消費税	7,049	9,356	△ 2,307
資産合計	3,368,355	2,217,591	1,150,764
【流動負債】	【 1,566,342 】	【 1,383,191 】	【 183,151 】
買掛金	995,921	835,382	160,539
短期借入金	126,000	108,000	18,000
未払給与	133,091	114,014	19,077
未払金	85,020	138,789	△ 53,769
賞与引当金	185,131	152,510	32,621
預り金	41,069	34,388	6,681
前受収益	110	108	2
大阪本部勘定	0	0	0
【固定負債】	【 340,861 】	【 191,694 】	【 149,167 】
退職給付引当金	340,761	191,594	149,167
その他固定負債	100	100	0
負債の部 計	1,907,203	1,574,885	332,318
【積立金】	【 1,461,152 】	【 642,706 】	【 818,446 】
繰越利益積立金	1,461,152	642,706	818,446
(うち当期純利益)	(818,446)	(1,153,770)	(▲335,324)
純資産の部 計	1,461,152	642,706	818,446
負債純資産合計	3,368,355	2,217,591	1,150,764

令和元年度 進行管理(PDCA)チェックシート
兼経営評価シート

(対象期間:平成31年4月1日～令和2年3月31日)

評価項目	1	建物・設備・備品は利用に支障をきたさないよう管理できているか。				
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会	
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4	
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4		
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4		
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4	
P(プラン) 令和元年度 事業計画	4 建物、設備、器具等の維持管理 ・建物及び設備等を良好に維持。					
D(実施状況)	投書への対応例 ・温度計設置による空調管理 ・トイレ等の美化 ・車椅子トイレに荷物用の籠を導入		(前年度) ・台風21号の被害箇所の修繕 ・Wi-Fi環境の構築			
C(自己評価の理由)	患者からの意見、投書にも迅速に対応し、適切な施設の維持管理を図った。					
A(今後の取り組み)	院内の美化に努め、患者、来院者にとって清潔で快適な空間を提供できるよう取り組んでいく。					
市のコメント	投書(清掃や施設の要望)にも、患者の快適性確保、事故防止のために迅速に対応できていた。					

評価項目	2	施設利用者数の状況はどうか。				
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会	
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4	
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4		
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4		
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4	
P(プラン) 令和元年度 事業計画	令和元年度(4～3月) ・1日あたり入院患者数 309人(退院患者含む) (病床稼働率 100.7%) ・1日あたり外来患者数 970人					
D(実施状況)	＜診療実績＞					
		R1実績 (4-3月)	R1計画 (4-3月)	H30 (4-3月)	H29 (4-3月)	
	①1日あたり入院患者数 (病床稼働率)	309人 (100.7%)	292人 (95.1%)	299人 (97.4%)	230人 (74.9%)	
	②1日あたり外来患者数	970人	890人	850人	559人	
	＜前年度比較(4月～3月)＞ ①1日あたり入院患者数 309人 前年度比 +10人(+3.3%)、目標との差 +17人 ②1日当たり外来患者数 970人 前年度比 +120人(+14.1%)、目標との差 +80人					
C(自己評価の理由)	100%を超えている病床稼働率となっている。外来についても、日平均970人と順調な推移である。ただし、かかりつけ医政策との兼ね合いは今後の課題である。					
A(今後の取り組み)	透析の本格実施や、救急科の常勤体制確保のため、引き続き医師確保に努める。また、病棟は満床の状態が続いているため、平均在院日数の短縮を目指し、より多くの患者様に当センターを利用いただけるよう体制を整備する。					
市のコメント	入院・外来患者数ともに非常に好調である。救急医療の常勤対応など、さらなる体制整備に努められたい。					

評価項目	3	収支計画の達成状況はどうか。																																	
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																														
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4																														
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4																															
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4																															
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4																														
P(プラン) 令和元年度 事業計画	令和元年度 収支計画(4-3月) 経常収支比率105.7%																																		
D(実施状況)	<p><実績> 前年度と比較し、入院・外来患者数、診療単価ともに増加したことから、経常収支比率は107.3%となり、計画値より上回った。</p> <p>・診療実績</p> <table><tr><td></td><td>R1実績</td><td>R1計画(4-3月)</td><td>H30</td><td>H29</td></tr><tr><td>①経常収支比率</td><td>107.3%</td><td>105.7%</td><td>112.8%</td><td>100.7%</td></tr><tr><td>②入院診療単価</td><td>61,151円</td><td>59,961円</td><td>56,946円</td><td>48,899円</td></tr><tr><td>③外来診療単価</td><td>19,047円</td><td>16,500円</td><td>16,447円</td><td>13,657円</td></tr><tr><td>④給与費比率</td><td>44.3%</td><td>50.1%</td><td>43.9%</td><td>54.9%</td></tr><tr><td>⑤材料費比率</td><td>32.7%</td><td>31.4%</td><td>30.3%</td><td>26.2%</td></tr></table>						R1実績	R1計画(4-3月)	H30	H29	①経常収支比率	107.3%	105.7%	112.8%	100.7%	②入院診療単価	61,151円	59,961円	56,946円	48,899円	③外来診療単価	19,047円	16,500円	16,447円	13,657円	④給与費比率	44.3%	50.1%	43.9%	54.9%	⑤材料費比率	32.7%	31.4%	30.3%	26.2%
		R1実績	R1計画(4-3月)	H30	H29																														
	①経常収支比率	107.3%	105.7%	112.8%	100.7%																														
	②入院診療単価	61,151円	59,961円	56,946円	48,899円																														
	③外来診療単価	19,047円	16,500円	16,447円	13,657円																														
	④給与費比率	44.3%	50.1%	43.9%	54.9%																														
	⑤材料費比率	32.7%	31.4%	30.3%	26.2%																														
C(自己評価の理由)	入院患者・外来患者の増による医業収益の増等から、前年度に引き続き健全経営を実施できている。																																		
A(今後の取り組み)	救急受入れの強化や、在院日数の短縮により、さらなる効率化を目指したい。																																		
市のコメント	入院・外来の利用状況に比例して収支も好転し、経常収支比率も良好な業績である。来年度からは企業債の償還が始まり経費増となるが、引き続き安定的な経営基盤の確立に努められたい。																																		

評価項目	4	病院の理念及び基本方針の方向性は適切か、周知はされているか。			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	3	3
P(プラン) 令和元年度 事業計画	1 基本方針 市民の生命と健康を守る公立病院としての使命を果たすため、救急医療への取り組み等、6つの基本方針を掲げる。				
D(実施状況)	①24時間対応の救急医療への取り組み、②患者中心の質の高い医療、③がん等の高度専門医療の提供、④地域医療の充実、⑤災害時医療、⑥人材育成を基本方針として、これらの達成に向けて、職員意識の向上を図っている。				
C(自己評価の理由)	救急医療、高度専門医療の提供や地域医療機関との連携強化へ、職員一丸となり取り組むことができています。さらには、本年度から府・市関係機関とともに災害時医療訓練(トリアージ訓練等)の実施に至ったのは、職員意識の向上によるところが大きい。				
A(今後の取り組み)	引き続き、基本方針の達成のために、職員意識の向上を図っていく。				
市のコメント	朝礼等により職員への周知が図られている。基本方針⑤災害時医療の体制整備のため、11月23日(祝)に災害訓練を実施し、6つの基本方針すべてに道筋がつけられた。				

評価項目	5	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成はできているか															
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4												
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4													
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4													
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4												
P(プラン) 令和元年度 事業計画	2 基本的な医療機能 ③診療機能の向上 ・平成31年4月から常勤医師を97名に増員(前年度比15名増員)。																
D(実施状況)	<div><職員数の状況 常勤換算> (単位:人)</div> <table><tr><td></td><td>H31.4</td><td>H30.4</td></tr><tr><td>①医師</td><td>110.45</td><td>86.10</td></tr><tr><td>②看護部</td><td>310.93</td><td>273.30</td></tr><tr><td>③医療技術</td><td>116.10</td><td>81.41</td></tr></table> <div>医師 24.35 人の増員 看護師 37.63 人の増員 医療技術職 34.69 人の増員</div>						H31.4	H30.4	①医師	110.45	86.10	②看護部	310.93	273.30	③医療技術	116.10	81.41
		H31.4	H30.4														
①医師	110.45	86.10															
②看護部	310.93	273.30															
③医療技術	116.10	81.41															
C(自己評価の理由)	総合医療センターの開設初年度であった前年度に引き続き、医師を始めとするスタッフの増員を図ることができた。																
A(今後の取り組み)	現在非常勤医の対応となっている診療科(救急科など)の常勤化を図るため、引き続き医師確保に努める。																
市のコメント	医師の大幅な増員、それに伴う診療科数の倍増について高く評価している。引き続き、スタッフの確保と育成に努められたい。																

評価項目	6	救急医療体制の整備は進められているか															
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4												
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4													
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4													
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4												
P(プラン) 令和元年度 事業計画	3 政策的医療 ①救急医療 ・市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少をめざす。																
D(実施状況)	<p><救急医療実施日> ○内科系・外科系 H30.4より実施(終日) ○小児科 泉州医療圏内で輪番制で実施 実施日:毎週火曜日、第2、4、5土曜日</p> <p><救急医療(各年度4-3月)></p> <table><tr><td></td><td>R1</td><td>H30</td><td>H29</td></tr><tr><td>救急医療</td><td>14,874</td><td>14,820</td><td>10,370</td></tr><tr><td>うち救急搬送</td><td>3,557</td><td>3,526</td><td>1,981</td></tr></table>						R1	H30	H29	救急医療	14,874	14,820	10,370	うち救急搬送	3,557	3,526	1,981
		R1	H30	H29													
	救急医療	14,874	14,820	10,370													
うち救急搬送	3,557	3,526	1,981														
C(自己評価の理由)	救急の全面再開を継続し、前年度に引き続き救急件数、救急搬送件数ともに増加した。																
A(今後の取り組み)	常勤の救急医を確保し、更なる救急体制の充実を目指す。																
市のコメント	今後も、救急受入件数を拡大し、市外搬送の減少に取り組み、目標達成に向け努力されたい。																

評価項目	7	医療機器の更新、整備の取り組みは進められているか			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4
P(プラン) 令和元年度 事業計画	4 建物、設備、器具等の維持管理 ・必要性、緊急性を十分に見極め、更新を行う。				
D(実施状況)	<div> <div> ・手術室用医療機器の購入 ・循環器内科用医療機器の購入 ・呼吸器内科、消化器内科用医療機器の購入 ・その他 </div> <div> (前年度) ・歯科口腔外科用医療機器の購入 ・CT、MRIの増設 </div> </div>				
C(自己評価の理由)	患者数の増加に対応できるよう、手術室6開設用医療機器等を導入した。				
A(今後の取り組み)	診療科の増設や患者数の増加などタイミングを見極め、随時更新を図る。				
市のコメント	患者数の増加等による即応的な機器購入はもとより、中長期的な医療機器の更新等について、引き続き市と調整を密にされたい。				

評価項目	8	地域医療機関との連携強化はなされているか			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	3	3	3
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	3	3	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	3	3	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	3	3
P(プラン) 令和元年度 事業計画	2 基本的な医療機能 ④地域医療機関との連携 ・紹介患者の受け入れ、逆紹介に努め 地域医療の向上に貢献します。				
D(実施状況)	<取り組み> 地域の医療機関への情報提供を継続実施。 令和元年11月2日(土)に地域の医療機関との連携の会を開催。 <紹介率・逆紹介率> 紹介率…【R1】71.3%、【H30】68.9% 逆紹介率…【R1】63.8%、【H30】45.5%				
C(自己評価の理由)	継続的に地域医療機関との連携を進め、紹介率・逆紹介率のいずれも向上している。				
A(今後の取り組み)	地域医療機関への訪問や、意見交換会の開催など、病診連携を強化し、紹介率、逆紹介率の向上を目指す。				
市のコメント	紹介率・逆紹介率のいずれも向上しているが、特に紹介率が大きく改善している。逆紹介率を高め、より一層の病診連携の強化に努められたい。				

評価項目	9	ホームページ等、広報・PRは効果的に実施できているか			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4
P(プラン) 令和元年度 事業計画	5 患者サービス向上 ②ホームページ、新聞広告等、広報の充実を行い、 病院情報の効果的なPRを行います。				
D(実施状況)	・市広報において、「医療講演」の案内を掲載するなど、病院情報を発信。市民向けの「健やかいずみ」や地域医療機関向けの「地域医療連携室だより」での情報提供とともに、グループでの「徳洲新聞」で総合医療センターにおける様々な取り組みをPRする。				
C(自己評価の理由)	各種情報を積極的に広報し、病院の情報発信を効果的に行うことができた。				
A(今後の取り組み)	継続してホームページの内容充実を行う。 「夏休み病院見学ツアー」や「医療講演」に力を入れて取り組み病院をPRする。				
市のコメント	市広報、新聞、ホームページ等の広報媒体を活用し、情報を積極的に掲載するなど、PR活動ができている。				

評価項目	10	待ち時間は適切であったか			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	3	3	3
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	3	3	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	3	3	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	3	3
P(プラン) 令和元年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。				
D(実施状況)	患者アンケートの結果、新病院となり患者増による待ち時間の増加がみられる。 提案ポストでは、診察・検査・会計での待ち時間に対する苦情が寄せられた。				
C(自己評価の理由)	想定以上の来院者数であり、各段階で患者様を待たせてしまっている状況である。				
A(今後の取り組み)	待ち時間の紹介患者の円滑な受入や、逆紹介の向上に努める等、待ち時間の解消を目指す。				
市のコメント	今後は、待ち時間の有効活用方策の検討や、紹介、逆紹介の増についても積極的に取り組まれない。				

評価項目	11	施設利用利便性向上の取り組みや自主事業等の実施状況は			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4
P(プラン) 令和元年度 事業計画	2 基本的な医療機能 ⑥健康増進の取り組み ・人間ドック・特定検診などの各種検診の充実を行う。 ・医療スタッフによる院外での医療講演会				
D(実施状況)	・夏休み親子病院見学ツアーを開催(中学・高校生9人、保護者9人参加)。 ・医療講演会、出前講座を継続実施。 ・人間ドッグのスタッフを増員し、利用者増を図った。				
C(自己評価の理由)	昨年度の取り組みを継続するとともに、自主事業を拡大した。 人間ドックの利用者数を増加させた。				
A(今後の取り組み)	人間ドック(ふるさと納税返礼品)の実施及び特定健診受診の呼びかけを、和泉市のホームページを使って案内する。				
市のコメント	医療講演等を行うなど、サービス向上に努めている。 また、病院見学ツアーで好評を得るなど、病院のPR活動を積極的に行っている。				

評価項目	12	職員の接遇について、適切に行われているか			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	3	3	3
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	3	3	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	3	3	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	3	3
P(プラン) 令和元年度 事業計画	5 患者サービス向上 ③職員の接遇について、研修や個別指導を行います。				
D(実施状況)	患者アンケート調査による意見の収集を行っている。 ご意見箱にしばしば接遇に関する苦情が寄せられており、院内委員会で検討を行った後、指導、教育の徹底を継続し、接遇の向上を図っている。				
C(自己評価の理由)	接遇に関する指摘は、院内委員会において、情報共有を行い、院内全体の取り組みとして改善を図っている。				
A(今後の取り組み)	今後も引き続き、院内委員会による研修をはじめとし、指導、教育を継続していく。				
市のコメント	接遇に関する苦情が増加した。職員への個別指導や、苦情からの改善策の吸い上げにより患者サービスを向上させ、苦情の減少に努められたい。				

評価項目	13	危機管理マニュアル作成や医療安全、情報管理の取り組み状況は												
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会									
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4									
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4										
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4										
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4									
P(プラン) 令和元年度 事業計画	1 基本方針 ② 患者中心の安全で質の高い医療の提供													
D(実施状況)	<p><基本的事項> 各種マニュアル作成済。 医療安全、情報管理についても適切な対応ができている。</p> <p><報告件数></p> <table><tr><td></td><td>令和元年度</td><td>平成30年度</td></tr><tr><td>インシデント</td><td>1,975</td><td>1,497</td></tr><tr><td>アクシデント</td><td>29</td><td>18</td></tr></table> <p>院内委員会で内容を検討し、職員意識の向上を図っている。</p>						令和元年度	平成30年度	インシデント	1,975	1,497	アクシデント	29	18
	令和元年度	平成30年度												
インシデント	1,975	1,497												
アクシデント	29	18												
C(自己評価の理由)	インシデント・アクシデントは前年度と比較して増加しており、職員の意識向上が図られている。													
A(今後の取り組み)	マニュアルについては、定期的な見直し作業を継続していく。 医療安全対策についても、引き続き、職員意識の向上を図っていく。													
市のコメント	各種マニュアルを整備し、医療事故等については市とも情報を共有するなど、適切な対応ができている。 インシデント・アクシデントに関する職員意識の向上が図られている。													

評価項目	14	災害時医療の体制整備の取り組みは進められているか				
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会	
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4	
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4		
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4		
	平成30年度(総括)	R1.7.31	4	4	4	
P(プラン) 令和元年度 事業計画	3 政策的医療 ③災害時医療 和泉市の地域防災計画に沿った体制により、職員研修、訓練を実施、災害発生時には傷病者を受け入れ、状況に応じて被災地への医師・看護師派遣を実施します。					
D(実施状況)	11月23日(祝)に災害訓練を実施。 府・市の関係機関とともに準備を行っている。 医療センター内の災害時の外来・入院患者への対応、トリアージ訓練を行う。 また、行政機関との連絡体制の確認を行い、災害時の医療体制整備を準備する。					
C(自己評価の理由)	関係機関との連携を図り、災害時医療の体制づくりを図っている。					
A(今後の取り組み)	現在、市や府(保健所)と連携した災害対策訓練の実施を検討中。 引き続き、災害時医療訓練を実施し、課題検討に努めていく。					
市のコメント	災害に備えた訓練・研修を行っている。 政策医療のひとつとして災害時医療を重視しており、今後の取り込みに期待したい。					

評価項目	15	患者アンケートを実施しているか、結果を運営に反映させているか																					
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																		
	令和元年度(総括)	R2.8.4	3	3	3																		
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	3	3																			
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	3	3																			
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	2	3																		
P(プラン) 令和元年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。																						
D(実施状況)	入院患者を対象とした簡易なアンケートを実施している。 結果が出次第、運営の改善につなげていきたい。 【参考】 R1 患者満足度(アンケートで「良い」以上) (単位: %) <table><tr><td colspan="2"></td><td>医師</td><td>看護師</td><td>その他職員</td><td>施設</td></tr><tr><td>入院</td><td>R1</td><td>89.5</td><td>92.6</td><td>82.9</td><td>74.9</td></tr><tr><td>外来</td><td>R1</td><td>77.6</td><td colspan="2">67.4</td><td>71.7</td></tr></table>							医師	看護師	その他職員	施設	入院	R1	89.5	92.6	82.9	74.9	外来	R1	77.6	67.4		71.7
		医師	看護師	その他職員	施設																		
入院	R1	89.5	92.6	82.9	74.9																		
外来	R1	77.6	67.4		71.7																		
C(自己評価の理由)	アンケートを実施済。前年度から職員の対応や施設への満足度が向上している。 一方で患者増に伴う待ち時間の長さ、個別意見については今後の課題となっている。																						
A(今後の取り組み)	患者の意見を真摯に受け止め、サービス向上につなげていく。																						
市のコメント	外来待ち時間対策、患者から寄せられた個別の意見についての対応を進め、医療環境を整え、患者満足度のさらなる向上につなげられたい。																						

評価項目	16	ご意見箱等の意見に適切に対応できているか			
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和元年度(総括)	R2.8.4	4	4	4
	令和元年度(4-1月)	R2.3.26	4	4	
	令和元年度(4-9月)	R1.11.18	4	4	
	平成30年度(総括)	R1.7.31	3	3	3
P(プラン) 令和元年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。				
D(実施状況)	提案ポストにいただいた意見を2日に1度、回収し、迅速に院長が確認できるようにしている。 ご意見への回答は、院内掲示を行っている。				
C(自己評価の理由)	院内委員会において、内容の検討をし、迅速に病院長に報告し対応している。				
A(今後の取り組み)	引き続き、投書内容を委員会で検討し、院内に周知していきたい。				
市のコメント	投書の要望事項について、適切な進行管理が行われている。 引き続き、患者意見の収集に努め、サービスの向上に努められたい。				

評点の考え方	割合(%)	点数
優れている	86 ～ 100	4点
できている	71 ～ 85	3点
概ねできている	56 ～ 70	2点
やや劣っている	41 ～ 55	1点
劣っている	0 ～ 40	0点

総合評価 令和元年度	自己評価	60	合 計(60点 / 64点) 合計評価点(94点 / 100点)
	市の評価	60	合 計(60点 / 64点) 合計評価点(94点 / 100点)
	委員会の評価	60	合 計(60点 / 64点) 合計評価点(94点 / 100点)

総合評価 平成30年度	自己評価	58	合 計(58点 / 64点) 合計評価点(91点 / 100点)
	市の評価	57	合 計(57点 / 64点) 合計評価点(89点 / 100点)
	委員会の評価	58	合 計(58点 / 64点) 合計評価点(91点 / 100点)

令和2年8月4日

和泉市長 辻 宏康 様

和泉市立総合医療センター
経営評価委員会 委員長 高杉 豊

令和元年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による
管理運営状況の評価について (答申)

令和元年 7 月 31 日付けで和泉市長から諮問のあった標記について、下記のとおり
答申します。

記

1. 評価の考え方

指定管理者（医療法人徳洲会）から令和元年度の管理運営実績の報告を受け、本
委員会で点検、評価を行った。評価方法は、第3項に掲げる点数方式による評価と
ともに、数値では表示しがたい点については、第4項に本委員会からの意見を付し
た。また、平成29年3月（令和元年8月改訂）に策定された和泉市立病院新改革プ
ラン（以下「新改革プラン」）についても実施状況の評価を行った。

2. 令和元年度管理運営の概況

①救急患者数及び救急搬送

救急患者受入数は前年度と同水準であった。

	令和元年度	平成30年度	差(増減率)	新改革プラン 令和元年度 目標値
救急患者数	14,874人	14,820人	54人 (+0.4%)	16,500人

和泉市消防本部からの救急搬送は前年度比2.0%の減となった。

	令和 元年度	救急搬送 受入率	平成 30年度	救急搬送 受入率	前年度比較 (増減率)	新改革プラン 令和元年度 目標値	救急搬送 受入率
救急搬送件数	2,303人	25.7%	2,351人	26.3%	▲48人 (▲2.0%)	2,600人	28.9%

②患者数

入院患者数、外来患者数ともに、前年度実績及び新改革プラン目標値を上回る
結果となった。

	実 績			令和元年度 新改革プラン 目標値
	令和元年度	平成30年度	比較(増減率)	
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	309人	299人	10人 (+3.3%)	292人
1日当たり外来患者数	970人	850人	120人 (+14.1%)	890人

③収支状況

患者数増に伴い、医業収益は増収となったが、医師や看護師等の増加による給与費の増加及び市への負担金の増から、前年度比較では減益となった。
 なお、経常損益並びに経常収支比率は、新改革プランの目標値を達成している。

	令和元年度	平成30年度	前年度比較	新改革プラン 令和元年度 目標値
経常損益	818,446千円	1,154,032千円	▲335,586千円	559,000千円
経常収支比率	107.3%	112.8%	▲ 5.5	105.7%

3. 評価1（評点結果）

評価対象	NO	評価項目	評点
管理 （基本的事項）	1	建物・設備・備品は利用に支障をきたさないよう管理できているか	4
運営 （基本的事項）	2	施設利用者数の状況はどうか	4
	3	収支計画の達成状況はどうか	4
医療サービス	4	病院の理念及び基本方針の方向性は適切か、周知はされているか	4
	5	必要なスタッフ（医師・看護師等）の確保と人材育成はできているか	4
	6	救急医療体制の整備は進められているか	4
	7	医療機器の更新、整備の取り組みは進められているか	4
	8	地域医療機関との連携強化はなされているか	3
施設利用 サービス	9	ホームページ等、広報・PRは効果的に実施できているか	4
	10	待ち時間は適切であったか	3
	11	施設利用利便性向上の取り組みや自主事業等の実施状況は	4
	12	職員の接遇について、適切に行われているか	3
危機管理	13	危機管理マニュアル作成や医療安全、情報管理の取り組み状況は	4
	14	災害時医療の体制整備の取り組みは進められているか	4
利用者の評価	15	患者アンケートを実施しているか、結果を運営に反映させているか	3
	16	ご意見箱等の意見に適切に対応できているか	4
合計点			60
合計点数	合計（60点 / 64点） 合計評価点（94点 / 100点）		
総合評価	（ S ・ AA ・ A ・ B ・ C ）		

評点の考え方	割合(%)	点数
優れている	86 ～ 100	4点
できている	71 ～ 85	3点
概ねできている	56 ～ 70	2点
やや劣っている	41 ～ 55	1点
劣っている	0 ～ 40	0点2

総合評点の考え方	総合評価
合計点数 90点以上	S
〃 80～90点未満	AA
〃 70～80点未満	A
〃 60～70点未満	B
〃 60点未満	C

4. 評価2（本委員会からの付帯意見）

①運営状況

- ・ 指定管理料が交付されている公立病院として、運営が黒字となっており、市民へのサービスの還元、医療環境の充実について検討されたい。
- ・ 入院診療単価が6万円を超えたが、さらに単価向上になるよう取り組まれない。
- ・ 逆紹介率に関して、努力の成果が現れており増大したが、さらなる向上に努められたい。

②医療サービス

(1) 必要なスタッフの確保と人材育成

- ・ 患者数増に対するスタッフが充足できていないことが報告資料から読みとれる。継続して人材確保に取り組んでいただきたい。

(2) 救急医療

- ・ 市内の患者を多く受け入れるには、医師等チームでの救急体制を整える必要がある。
- ・ 現在、満床ではあるが病床稼働率を減らし、救急患者の受け入れを増やすことも考慮されたい。

(3) 危機管理・医療安全

- ・ 看護師のインシデント件数が増加していることは評価できるが、看護師不足で忙しさが原因になっていないか、管理体制を検討願いたい。

(4) 地域医療機関との連携

- ・ 患者サービスの向上、さらなる紹介率、逆紹介率向上を図るには、他病院と市立総合医療センターの予約状況等を確認できる相互システムを導入できるか考察する必要がある。
- ・ 地域医療機関との連携強化については、紹介率、逆紹介率も前年度を上回り、着実に向上している。今後は、地域医療支援病院の指定を目標に取り組まれない。

③施設利用者へのサービス

- ・ 待ち時間に関して適切な実態把握を分析願いたい。

④利用者の評価

- ・ 引き続き、患者アンケートを実施し、医療の充実及び医療サービスの向上に繋がられたい。

5. 総括

新たな医療機器の導入や医師等の増員が行われたことにより、昨年度よりも患者数も増となるとともに、和泉市立総合医療センターの初年度に続き令和元年度の運営も好調である。

救急医療についても、令和元年度も受け入れ件数も増となり、公立病院としての使命を果たしていることに高く評価したい。

また、地域の中核病院に求められる機能整備が着実に進められていることが認められる。

これらの結果、令和元年度の管理運営状況においては、入院・外来患者数は前年

度を上回り、収支面も含め前年度に引き続き好成績となった。

好調の要因として、医師の増員や医療機器の更新の他にも、新病院での効率的な病床管理を実行するなど、運営面での手腕によるものも大きいと考えられる。

引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、総合医療センターの名に相応しい、地域の拠点病院としての役割を果たしていくことである。

今後も市と協力し、医療水準の向上に取り組み、安全安心で市民に信頼される病院になることを期待する。

和 泉 健 第 1108 号

令 和 2 年 7 月 27 日

和泉市立総合医療センター経営評価委員会

委員長 高杉 豊 様

和泉市長 辻 宏 康

令和 2 年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況
及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について（諮問）

和泉市立総合医療センターの適正な管理運営を確保するとともに、サービス水準の向上につなげるため、指定管理者による管理運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況を貴委員会において評価いただきますよう、和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則第 2 条に基づき諮問します。

○和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則

平成26年6月25日

規則第35号

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市病院事業の設置等に関する条例（昭和47年和泉市条例第3号）第3条の2の規定に基づき、和泉市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じて、和泉市立病院の指定管理者による管理運営状況の評価及び和泉市立病院新改革プランに基づく進行管理を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

2 委員会の委員は、病院経営、経理、地域医療その他医療に関し学識経験を有する者及び市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴く

ことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、病院事業担当部署において処理する。

(補則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成26年6月25日から施行する。

附 則（平成29年規則第20号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規則第9号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

和泉市立病院 新改革プラン

(平成 28～32 年度)



※新病院イメージ図（平成 30 年 4 月開院予定）

平成 29 年 3 月
(令和元年 8 月改訂)
和 泉 市

【目 次】

はじめに	1
I. 公立病院改革プランの経過	
1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定	2
2. 当院のこれまでの取り組みと成果	2
(1) 指定管理者制度への移行	
(2) 泉州二次医療圏域における当院の現状	
(3) 経営状況等の改善	
(4) 新病院の建設	
II. 新公立病院改革プランにおける取り組み	
1. 新改革プランの4つの視点	6
(1) 医療水準向上の取り組みによる経営健全化	
(2) 再編・ネットワーク化	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	
2. 数値目標の設定	11
3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表	11
○別紙1 収支計画書（指定管理者）	12
○別紙2 収支計画書（病院事業会計）	13

はじめに

公立病院は、医師不足等のために、その多くが経営不振に陥っていたことから、国は、平成 19 年に「公立病院改革ガイドライン」を策定し、病院を設置する自治体に対して、「公立病院改革プラン」を策定し、3 つの視点（経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し）からの経営改革の実施を要請した。

これを受けた各自治体の取組によって、一定の成果は上がったものの、依然として医師不足等の厳しい環境が続く中、多額の一般会計繰入金を受けても損益黒字の病院が半数に満たないなど、持続可能な経営を確保している病院は限定的であったことから、国は、平成 27 年に「新公立病院改革ガイドライン」を策定し、再度すべての病院設置自治体に、「新公立病院改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）を策定するよう要請した。

この新改革プランでは、前回の 3 つの視点に加え、新たに「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」が追加されている。これは、いわゆる 2025 年問題（団塊の世代が 75 歳以上になり、医療費・介護費の増大が懸念されている）を踏まえ、今後の人口減少や高齢化の進展による変化に対応できるよう、地域の実情に応じた当該病院の将来の病床機能のあり方や、地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割を示すことを求めるものである。

和泉市立病院（以下「当院」という。）は、他の公立病院と同様、医師不足等から、平成 18 年に救急告示を取り下げて以降、急激に経営が悪化し、平成 20 年度には「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」を策定したが、慢性的な赤字体質、救急医療の再開、施設の老朽化といった重い課題を解決できる見通しが立たず、赤字補てん等のために一般会計から多額の補助金を投入せざるを得なくなった。

市全体の財政運営への多大な影響を危惧した本市は、「和泉市立病院あり方検討委員会」の答申を踏まえ、病院再生に向けた改革を断行することとし、平成 26 年 4 月に市立病院の公設民営化（指定管理者制度への移行）に踏み切った。その道程には多くの課題があったが、市・市議会一丸となって克服したことにより、今日の救急医療の再開や一般会計からの赤字補てん補助金の解消、さらには、かつて実現困難とされた新病院建設事業にも着手できた。

当院は、公設民営による経営に移行したことにより、前回の改革プランの目標は達成したが、今回策定した新改革プランの 4 つの視点の達成に向け、新たな気持ちで最善を尽くすことはもとより、公設民営化の主眼であった 365 日 24 時間救急体制の早期実現をはじめ、さらに安全で質の高い医療を目指しつつ、今以上に市民・患者に信頼され、愛される病院となるよう、歩みを止めずに病院改革に取り組んでいくものである。

I. 公立病院改革プランの経過

1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定

当院は、昭和 38 年に病床数 60 床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和 47 年に、設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

しかし近年、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成 19 年度には経常損失約 16 億円、不良債務（資金不足）約 20 億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成 21 年 3 月に策定された「和泉市立病院 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成 20 年度から平成 27 年までを計画期間とし、平成 25 年度における経常収支の黒字化、平成 27 年度における不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

2. 当院のこれまでの取り組みと成果

（1）指定管理者制度への移行

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づく経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える 3 つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、市は、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえて、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成 26 年 4 月から医療法人徳洲会による運営を開始した。

（2）泉州二次医療圏における当院の現状

当院は現在、急性期病院として、泉州二次医療圏の地域医療の向上に貢献している。当院の主な特長は、以下のとおりである。

① がん診療

大阪府がん診療拠点病院として主に泉州地域の患者を受け入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施している。また、緩和ケア病棟（22 床）は常時満床に近い患者数を受け入れている。

② 救急医療

平成 27 年 6 月から救急患者の受け入れを再開し、現在は週 5 日体制となっている。早期の全面再開を目指している。

○ 救急患者の受入時間

(平成 29 年 3 月 1 日現在)

		内科、外科系	小児科（輪番制）
救急 実 施 日	日	9:00 ~ 17:00	
	月	9:00 ~ 翌 8:00	
	火		17:15 ~ 翌 6:00 (祝日の場合 23:00~翌 6:00)
	水	9:00 ~ 翌 8:00	
	木	9:00 ~ 翌 8:00	
	金		
	土	9:00 ~ 17:00	23:00 ~ 翌 6:00 (第 2, 4, 5 週)

③ その他の診療科

各診療科においても、重要な役割を担っている。

- ・整 形 外 科… 人工関節手術で多数の紹介患者を受入れ
- ・肝 臓 内 科… 専門医を確保しウイルス性肝炎患者を受入れ
- ・呼吸器内科… 専門医を確保し紹介患者を受入れ
- ・小 児 科… 泉州地域では希少な発達障害の患者を受入れ

(3) 経営状況等の改善

① 患者数

平成 26 年度は、指定管理者制度への移行の初年度であり、医療スタッフの退職等による一時的な落ち込みがあったが、救急医療の再開等により、患者数は順調に回復してきている。

○ 1 日あたり患者数等の推移

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4 月～1 月)
1 日あたり入院患者数(人)	191.2	165.7	201.1	215.0
病床利用率※ (%)	62.3	54.0	65.5	70.0
1 日あたり外来患者数(人)	545.8	483.3	507.6	543.3

※許可病床 307 床にて算出

② 救急患者数

②-1 救急患者の受入れ

平成 27 年 6 月から救急患者の受入れを再開し、患者数は大きく増加している。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

		公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4 月～1 月)
救急患者数		3, 835	4, 756	7, 326	8, 471
うち救急搬送者	小児科	394	432	402	341
	内科系・外科系	409	401	834	1, 246
	合 計	803	833	1, 236	1, 587

②-2 市内救急搬送患者の受入れ

救急告示取下げ以降、市内の救急搬送は、市内の民間病院や市外の病院に依存していたが、救急患者受入れの再開に伴い、受入件数は大きく増加している。

○ 救急搬送件数の推移

※()内は構成比 (単位：件、%)

	公設公営	公設民営（指定管理者）		
	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
和泉市立病院	455 (5. 8)	441 (5. 5)	674 (8. 5)	1, 222 (14. 9)
市内他病院	4, 338 (56. 0)	4, 437 (54. 9)	3, 946 (49. 7)	3, 642 (44. 3)
市外病院	2, 960 (38. 2)	3, 204 (39. 6)	3, 317 (41. 8)	3, 359 (40. 8)
合 計	7, 753 (100. 0)	8, 082 (100. 0)	7, 937 (100. 0)	8, 223 (100. 0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

③ 経常収支の状況

平成 25 年度は、患者数の減少等により大幅な経常赤字となったが、公設民営化後、指定管理者が、民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、経常収支の改善が進んでいる。

○ 経常収支の推移

(単位：百万円)

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (見込み)
経常収入	5, 861	5, 009	5, 844	6, 153
経常支出	7, 975	5, 344	6, 051	6, 069
経常収支	▲2, 114	▲335	▲207	24

(4) 新病院の建設

現病院施設は、平成 16 年に増築された南館を除き、建築後 50 年を越える北館をはじめとして、老朽化が進んでいる。また、施設の一部は「官庁施設の総合耐震計画基準」が求める耐震基準を満たしていないことから、早期の建替えが必要であったが、病院の経営及び市の財政状況は厳しく、建替えは非常に困難であった。

しかし、先述の「和泉市立病院あり方検討委員会」からの答申を踏まえ、指定管理者制度を導入したことによって、民間のノウハウ活用による建設費用の抑制が見込まれたほか、指定管理者との間で、建設費用を折半することが合意できたことから、市は、新病院の建設に着手することとした。

現在建設中の新病院は、免震構造を採用するなど、東南海地震をはじめとする災害に強い病院を目指し、平成 30 年 4 月に開院の予定である。

- 新病院の病床数：307 床 内訳）高度急性期病床（HCU）8 床
急性期病床 275 床
回復期病床（緩和ケア病床）24 床

Ⅱ. 新公立病院改革プランにおける取組み

1. 新改革プランの4つの視点

「はじめに」に記載したとおり、新改革プランでは、前回の取組み項目（①経営の効率化、②再編・ネットワーク化、③経営形態の見直し）に加え、新たに「④地域医療構想を踏まえた役割の明確化」として、人口減少や少子高齢化の進展による医療需要の変化等に対応できるよう、地域の実情に応じた将来の医療機能の病床数を示すこととされている。

地域医療構想は、「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（医療介護総合確保推進法）に基づき、国が都道府県に対して策定を要請したもので、平成37年時点の医療需要・必要病床数を推計し、目指すべき医療提供体制を明確にした構想を、医療圏ごとに策定するものである。

当院では、新病院開設許可を得るにあたり、当時策定途中であった「地域医療構想」との整合が求められたことから、地域医療構想に沿った病床機能の転換を行うため、大阪府と協議を重ね、新病院建設の開設許可を得たところである。

また、医療と介護の連携推進に関しては、医療・介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の取組みに積極的に参画していくものである。

これら4つの各取組み項目について、設置者である市と、管理運営を行う指定管理者の双方が互いに協力しながら、次のような取組みを進めるものとする。

（1）医療水準向上の取組みによる経営健全化

当院では、平成26年度に経営形態を変更しているが、新ガイドラインにおいては、既に経営形態の見直しに取り組んだ病院についても、現在の取組み状況や成果を検証するとともに、更なる見直しの必要性について検討することが求められている。

したがって、当院では下記の取組みにより医療水準を高め、更なる患者獲得に努めることで、経営黒字化を達成し、持続可能な運営の確保を目指していく。

※ 数値目標については、「2. 数値目標の設定」に後掲。

※ 計画対象期間中の各年度の収支計画等は、別紙1及び別紙2のとおり。

○ 医療水準向上の主な取組み（予定）

取組み項目	平成 30 年度（新病院開院時）
① 救急・急性期医療	<ul style="list-style-type: none"> ・救急科を設置し、救急患者の全日受入れ体制を構築 ・中核となる脳神経外科、循環器・消化器・呼吸器内科等の充実
② がん医療	<ul style="list-style-type: none"> ・高精度放射線治療システム（トモセラピー）の整備 ・外来化学療法室、緩和ケア病棟の充実 ・がん医療に関わる診療科でのがん診療機能の整備
③ 小児医療	<ul style="list-style-type: none"> ・小児専用病棟の充実
④ その他の医療機能	<ul style="list-style-type: none"> ・内分泌代謝糖尿病内科の新設 ・神経内科の設置及び救急医療での脳神経外科との連携 ・人工透析患者対応の検討

（２）再編・ネットワーク化

平成 20 年 5 月に、当院が婦人科、泉大津市立病院が産科を担当する産婦人科の機能分担協定を締結しているほかは、現時点では、他の病院との機能分担等は想定していない。

今後は、本医療圏の医療需要に鑑み、市域の療養型病院や介護施設等との連携に努めつつ、引き続き、当院の医療機能を補完すべく、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）との連携強化を図っていく。

（３）経営形態の見直し

当院は、平成 26 年 4 月から指定管理者制度へ移行しており、現在、指定管理者のノウハウを活かしながら、健全経営に向けた取組みを行っている。その結果、救急医療の再開、市からの赤字補てん補助金の解消、新病院建設事業の着手などが実現している。

引き続き、外部有識者による運営状況の点検、評価を継続し、更なる見直しが必要な場合は適宜対応していく。

（４）地域医療構想を踏まえた役割の明確化

当院の課題である救急医療の拡充を目指しながら、泉州二次医療圏に不足している病床機能（高度急性期、回復期）の整備を行うとともに、市において進められている地域包括ケアシステム構築の取組みに参画していくものとする。

① 大阪府地域医療構想

大阪府地域医療構想は、今後さらに医療・介護の需要が増大する見込みの中、医療や介護に関する他の計画との整合性を図りながら、地域において効果的かつ効率的な医療提供体制を構築することを目的として、平成 28 年 3 月に策定された。

その中で、医療面においては、地域の需要に応じた適切な医療を提供するために、病床機能の分化と連携の推進に取り組むことが明記された。

また、医療圏ごとに、高度急性期、急性期、回復期（回復リハ、緩和ケア、地域包括ケア）、慢性期の各病床の平成 37 年の必要見込数が示されており、これを基に、各地域において必要な検討、協議を行い、構想の実現に取り組むこととされている。

② 泉州二次医療圏の状況

当院は、泉州二次医療圏に属する。本市の平成 22 年の高齢化率は、泉州地域において最も低いが、平成 22 年から平成 37 年の高齢化率の上昇率は、阪南市、熊取町に次いで大きいと推計されており、今後一層の医療需要の増加が見込まれる。

現在、本地域は 76 病院（14,785 床）、675 の診療所、450 の歯科診療所を有しているが、他の圏域との比較では、公立病院が多く（76 病院中 7 病院）、精神病床が多いという特徴がある。

また、府の推計では、平成 26 年度の病床機能報告制度の病床数と、平成 37 年の必要病床数（推計）を比較すると、高度急性期機能は 381 床不足、急性期機能は 829 床過剰、回復期機能は 1,688 床不足という結果となっている。

○ 泉州各市町の病床数等の状況

	人口 (人)	高齢化率 (%)		病院 数	病 床 数 (床)						一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所
		平成 22 年度	平成 37 年度 推計		一 般	療 養	精 神	結 核	感 染 症			
和泉市	185,650	19.4	27.2	14	3,037	1,279	793	965	0	0	116	92
泉大津市	76,137	19.9	26.4	4	429	321	108	0	0	0	68	48
高石市	57,746	22.6	29.3	5	1,093	173	184	736	0	0	52	35
岸和田市	196,586	22.1	27.9	17	3,268	1,259	1,029	980	0	0	147	106
貝塚市	89,735	21.6	27.0	9	2,460	354	217	1,889	0	0	60	35
泉佐野市	99,447	21.6	26.6	12	1,561	705	504	342	0	10	88	49
泉南市	62,974	22.6	29.0	7	1,173	248	343	582	0	0	36	22
阪南市	55,318	22.5	32.9	3	386	250	136	0	0	0	40	28
忠岡町	17,603	23.4	27.9	1	47	0	47	0	0	0	14	10
熊取町	44,758	20.3	29.7	2	990	148	202	640	0	0	36	16
田尻町	8,522	21.5	23.3	1	40	40	0	0	0	0	9	5
岬町	16,268	30.6	39.0	1	301	0	301	0	0	0	9	4
合計	910,744	21.4	28.1	76	14,785	4,777	3,864	6,134	0	10	675	450

出典 人口：大阪府統計課（平成 26 年 10 月 1 日現在）

H37 高齢化率：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

病院・病床数：平成 27 年 3 月 31 日現在 大阪府健康医療部資料

○ 平成 26 年度の病床数と平成 37 年必要病床数の比較

(単位：床)

年度（年）	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答	合計
病床機能報告数(26 年度) a	612	3,647	935	3,409	39	8,642
必要病床数 (37 年) b	993	2,818	2,623	2,523		8,957
差 引 c(a-b)	▲381	+829	▲1,688	+886		

出典 大阪府地域医療構想

- (注) 1. 平成 26 年度の病床機能報告は、他の医療機関の報告状況や地域医療構想及び同構想の病床の必要量（必要病床数）等の情報を踏まえていないことから、個別医療機関間、二次医療圏等の地域間、病床の機能区分等の比較の際は注意が必要。（厚生労働省地域医療構想策定ガイドライン）
2. 病床機能報告制度は、大阪府全体で約 6,000 床（本構想地域では約 520 床）が未報告または無回答となっている。

③ 当院の果たすべき役割

③-1 大阪府地域医療構想を踏まえた果たすべき役割

・ 高度急性期病床（HCU）8 床、急性期病床 275 床を整備

現在、市内救急搬送の約 4 割が市外搬送となっている。新病院では、市民からの信頼を高めるため、高度急性期病床（HCU）8 床を整備し、救急科を設置することで、救急受入体制を充実させ、市外への搬送を最小化することを目標とする。

また、急性期病床 275 床のうち腫瘍内科を 42 床、小児科を 23 床とすることで、需要の高いがん医療を充実させ、政策的医療として重要な小児医療専用病棟を引き続き設置する。

・ 回復期病床（緩和ケア病床）24 床を整備

新病院においては、がんの症状に付随する痛み、倦怠感等の身体的な症状を緩和し、患者やその家族が「自分らしく」過ごせるよう療養環境の充実を目指し、緩和ケア病床を 22 床から 24 床に増床する。

③-2 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

本市では、平成 19 年度から 20 年度にかけて大阪府「地域包括ケア体制整備モデル事業」を受託し、他職種連携研修会等を実施してきた。

また、平成 25 年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

これらの組織に、当院の院長をはじめ病院職員が参画し、看護師とケアマネジャーとの協働による退院支援を検討するなど、在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

③-3 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

- ・ 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費（指定管理者に交付する政策医療交付金）

※ 当該年度の普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限とする。

- ・ 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の 1/2（ただし、平成 14 年度までに着手した事業の企業債元利償還金は 2/3）

③-4 医療機能等の指標に係る数値目標

救急受入体制を充実させ、救急搬送受入率を高めることで、市民、地域医療機関に信頼される病院づくりに取り組んでいく。また、その他の診療科についても充実に努め、病床利用率を向上させること等により、経営の安定化に努めていくものとする。

※ 数値目標は、「2. 数値目標の設定」に後掲。

③-5 市民の理解

当院の医療機能として、新病院開院時には、急性期医療を主軸に、高度急性期医療（救急医療）、回復期医療（がん医療）に注力していくことを、市ホームページ

や院内掲示等により市民等に周知していく。

2. 数値目標の設定（令和元年度、令和2年度は見直し後の数値目標）

○ 入院患者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1 日あたり患者数(人)	217	241	270	292	292
病床利用率 (%)	70.7	78.5	87.9	95.0	95.0
診療単価 (円)	49,000	48,934	51,500	59,961	61,925

○ 外来患者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
1 日あたり患者数(人)	547	547	549	890	925
診療単価 (円)	14,000	14,585	14,600	16,500	16,800

○ 救急患者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
救急患者受入数(人)	7,600	8,400	10,050	16,500	17,000
市内救急搬送受入率 (A) ÷ (B) × 100 (%)	14.7	21.8	43.5	28.9	30.0
市内救急搬送受入数(人) (A)	1,222	1,830	3,700	2,600	2,760
和泉市消防本部搬送者数(人) (B)	8,300	8,400	8,500	9,000	9,200

○ 経常収支比率

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度
経常収支比率 (%)	101.4	101.6	103.0	105.7	105.0

3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表

新改革プラン実施状況の点検、評価、公表については、外部有識者で組織する「和泉市立病院経営評価委員会」を定期的開催し、指定管理者による運営状況とあわせて、新改革プランの進捗状況について点検、評価し、その結果については、速やかに市民に公表していく。

和泉市消防本部 救急搬送件数(令和元年度)

<重症度別>

(括弧内は構成比 単位:人、%)

		死亡	重篤	重症	中等症	軽症	その他	令和元年度 合計(A)	平成30年度 合計(B)	前年同月比 (A)-(B)
市内	和泉市立総合医療センター	44	0	271	447	1,541	0	2,303 (25.7)	2,351 (26.3)	▲ 48 ▲ 2.0%
	府中病院	87	0	482	712	1,858	0	3,139 (35.0)	3,276 (36.6)	▲ 137 ▲ 4.2%
	咲花病院	0	0	22	56	114	0	192 (2.1)	207 (2.3)	▲ 15 ▲ 7.2%
	光生病院	0	0	67	22	125	0	214 (2.4)	203 (2.3)	11 + 5.4%
	大阪母子医療センター	0	0	4	48	33	0	85 (0.9)	86 (1.0)	▲ 1 ▲ 1.2%
	その他	0	0	8	8	11	0	27 (0.3)	26 (0.3)	1 + 3.8%
	市内計	131	0	854	1,293	3,682	0	5,960 (66.5)	6,149 (68.7)	▲ 189 ▲ 3.1%
市外	岸和田徳洲会病院	9	0	80	168	616	0	873 (9.7)	946 (10.6)	▲ 73 ▲ 7.7%
	馬場記念病院	3	0	74	114	306	0	497 (5.5)	450 (5.0)	47 + 10.4%
	ベルランド病院	2	0	38	80	110	0	230 (2.6)	211 (2.4)	19 + 9.0%
	近大医学部付属病院	3	0	45	77	75	0	200 (2.2)	132 (1.5)	68 + 51.5%
	岸和田市民病院	4	0	28	35	116	0	183 (2.0)	153 (1.7)	30 + 19.6%
	堺市立総合医療センター	2	0	18	76	136	0	232 (2.6)	159 (1.8)	73 + 45.9%
	泉大津市立病院	0	0	7	19	66	0	92 (1.0)	101 (1.1)	▲ 9 ▲ 8.9%
	高石藤井病院	3	0	16	28	25	0	72 (0.8)	111 (1.2)	▲ 39 ▲ 35.1%
	その他	5	0	102	221	297	0	625 (7.0)	541 (6.0)	84 + 15.5%
	市外計	31	0	408	818	1,747	0	3,004 (33.5)	2,804 (31.3)	200 + 7.1%
合計		162	0	1,262	2,111	5,429	0	8,964 (100.0)	8,953 (100.0)	11 + 0.1%

参考資料4

診療科別 紹介患者数

	R1年度(A)	H30年度(B)	増減	増減率(%)
			(A)-(B)	
呼吸器内科	1,812	1,711	101	+5.9
消化器内科	1,548	1,459	89	+6.1
放射線科	1,226	953	273	+28.6
歯科口腔外科	1,145	429	716	+166.9
整形外科	1,065	1,155	▲ 90	▲ 7.8
小児科	947	838	109	+13.0
循環器内科	759	839	▲ 80	▲ 9.5
泌尿器科	597	848	▲ 251	▲ 29.6
肝胆膵内科	551	492	59	+12.0
皮膚科	531	473	58	+12.3
内分泌・糖尿病内科	491	955	▲ 464	▲ 48.6
脳神経内科	489	826	▲ 337	▲ 40.8
耳鼻いんこう科	480	550	▲ 70	▲ 12.7
リウマチ・膠原病内科	463	501	▲ 38	▲ 7.6
脳神経外科	439	410	29	+7.1
外科	423	365	58	+15.9
婦人科	351	324	27	+8.3
腫瘍内科	301	232	69	+29.7
形成外科	300	246	54	+22.0
血液内科	259	537	▲ 278	▲ 51.8
総合内科	239	134	105	+78.4
乳腺外科	184	232	▲ 48	▲ 20.7
呼吸器外科	100	97	3	+3.1
腎臓内科	98	142	▲ 44	▲ 31.0
眼科	90	141	▲ 51	▲ 36.2
救急科	83	52	31	+59.6
心臓血管外科	35	75	▲ 40	▲ 53.3
精神科	29	40	▲ 11	▲ 27.5
	15,035	15,056	▲ 21	▲ 0.1

診療科別単価 前年度比較

(常勤医師配属診療科のみ)

入院	R1	H30
外科	88,659円	74,973円
血液内科	85,825円	77,509円
循環器内科	75,006円	66,193円
脳神経外科	74,391円	63,807円
整形外科	71,285円	68,194円
婦人科	68,133円	64,910円
形成外科	66,087円	62,578円
消化器内科	58,330円	55,691円
歯科口腔外科	52,973円	61,760円
泌尿器科	52,334円	53,033円
腫瘍内科	50,795円	48,930円
小児科	50,674円	50,375円
脳神経内科	50,654円	53,209円
リウマチ・膠原病内科	46,574円	43,482円
皮膚科	44,668円	37,045円
呼吸器内科	44,125円	43,719円
肝胆膵内科	41,766円	37,748円
耳鼻いんこう科	40,503円	43,109円
内分泌・糖尿病内科	38,867円	36,422円
全診療科平均	61,151円	56,946円

外来	R1	H30
腫瘍内科	76,897円	70,139円
血液内科	69,694円	59,797円
脳神経内科	64,142円	51,967円
放射線科	41,118円	43,748円
リウマチ・膠原病内科	30,029円	23,978円
呼吸器内科	21,789円	16,528円
外科	19,942円	15,694円
泌尿器科	16,477円	15,946円
心臓血管外科	15,768円	15,153円
消化器内科	15,443円	15,435円
脳神経外科	12,859円	9,712円
内分泌・糖尿病内科	12,511円	13,198円
婦人科	12,273円	10,862円
肝胆膵内科	11,781円	10,733円
小児科	11,544円	9,449円
循環器内科	11,076円	10,752円
腎臓・透析内科	9,941円	14,919円
精神科	9,292円	9,016円
整形外科	8,207円	7,699円
歯科口腔外科	7,933円	11,073円
形成外科	7,154円	5,824円
耳鼻いんこう科	6,309円	6,332円
眼科	5,035円	5,497円
皮膚科	4,497円	4,063円
全診療科平均	19,047円	16,447円